

たんぽぽ

発行者 川村 克彦

運動会 お世話になりました



主体的な子供を育てるために

運動会も終わり、2学期も半分が過ぎようとしています。運動会では、子供たちは今日の自分の練習を振り返りながら、次の練習を行ってきました。この振り返りがないと、ただの練習になってしまいます。いつも自分を見つめて見つめ直して生活していく。それが主体的につながっていきます。

主体的な子供とはどんな子供なのか。今回は乙女小学校の6年生が毎日行っている、国旗と校旗の掲揚を例にとってお話いたします。この国旗や校旗の掲揚は決して独特のものではなく、私が以前勤めていた学校でも3本のポールがあったので、6年生が国旗と市旗と校旗を掲揚していました。なぜ行うか。それは教育活動のためです。「6年生の仕事だからとりあえず今年一年間掲揚して。」では、受け身的で、主体的な子供は育ちません。私も6年生担任として前任校では苦勞しました。天気も考えずに掲揚してしまうこともしばしばでした。掲揚するのを忘れた子がいた時は、怒ることもありました。でも、子供に任せてしまう事が大切であり、そしてその行動を「評価」してあげることが大切なのかなと気づいてきました。例えば、「今日、旗あげた方がいいですか?」「どうして。」「雨が降りそうだからです。」「なるほど、考えたね。みんなに任せてあるから考えてやって。」という会話が始めると、次から天気予報を気にする子、当番同士で話し合っってはじめてからあげない子など考えて動く子どもが徐々に出てきます。旗のなびき方にまで気にする子が出てきます。大人(教師)が先回りして、「今日は雨が降りそうだからあげなくていいよ。」では、子供が考え主体的に動く教育にならないのです。低学年の生活科で「これから毎日朝顔に水をあげましょう。」なんて大人が言ってしまうと、純真な子供は雨の中でも水をあげてしまうのと一緒にです。

以下にあるのは、ある学校の6年生が、小学校生活の最後に書いた詩です。

校旗を掲げて

私たち6年生は、毎日校旗をあげる。

強い風に驚き、ふきとばされないように ひもをしぼる手に力をこめた朝。

急に降り出した雨の中を、ぬれながら校旗をおろしに行った日。

空模様を気にかけながら 私たちは、毎日校旗をあげ続ける。

「知らなかった。6年生はこんな事してたんだ」

新しい6年生に受けつがれる古びた旗を手し この一年間を思い出す。

私は、忘れないでいきたい。 どこかでだれかがいつも働いていることを。